

～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～

寒川町小谷小学校

研究テーマ：自ら課題解決に取り組む子どもを目指して～問いがつながる授業づくり～

1 実践の目的

今年度は、研究発表でこれまでの研究のまとめを行った。昨年度から引き続き、「自ら課題解決に取り組む子どもを目指して～問いがつながる授業づくり～」をテーマとし、学校全体で「問い」についての共通理解を図った。そして、「問いが生まれる」ために、教師の問いかけや問い返し、しかけづくりなどの研究が中心となり、「生まれた」問いがどう「つながるのか」の研究へと深めてきた。

2 実践の内容

(1) 小谷小学校としての「問い」の捉え方

① 「問い」=子どもたちから生まれるもの

教師が提示した課題から、児童自身が「やってみよう」「はっきりさせたい」「モヤモヤする」「わくわく・ドキドキする」「どうしたらよいのだろう」と感じ、自ら課題解決しようとするものを「問い」とした。問いは、子どもたちが課題から個々に考えたり、個がつながってみんなで考えたりしながら、自ら決定していく授業のめあてのこと。

② 「個の問い」と「みんなの問い」

「問い」は1つではなく、学習を進める中で様々な問いが生まれる。「個の問い」が、つぶやきや発言によって表出され、学級全体で解決していこうとするものに焦点化されていく。これが「みんなの問い」であり、「個の問い」をどのように「みんなの問い」にしていくかが、大切になってくる。



(2) 「問い」が生まれる授業づくり

① 文脈づくりと教師による問い返し

やり取りの中で文脈をつくる

課題に対して、子どもたちとのやり取りを通して文脈を作っていくことが大切である。小さな問いと思考・判断を積み重ねていくことで、生じる幅を絞り、学びにより深く迫っていくものになる。

教師による問い返し

「問いが生まれる」場面において、問いは1つではないことを意識する。いくつもの問いがつながって、「みんなで考えたい問い」が生まれ、自力解決や共有を行っていく。教師が問い返しを行うことが、その「問い」を解決する過程で、「本時のねらいに迫る問い」を生み出すために、効果的である。



② 「困ったこと」「分からないこと」を授業の中心として取り上げ共有する。教師の問いかけや共有の仕方に工夫をすることによって、子ども同士がつながり、原因を探ろうとしたり、他の方法はないかと考えたりする「主体的な学び」へと繋がっていくと考える。

③日々の授業での教師の価値づけ

子どもたちには、与えられた課題を解決する力だけではなく、生活の場面で「何が必要なのか」を考え、必要な情報を選択し、調べ、解決していく力が求められている。教師が日々の授業の中で、児童の活動や学習に価値づけをして繰り返し取り組んでいくことで、児童の中に「自ら問いを持ち、学習したことを日常生活や社会の事象に活かそうとする力」を育むことができる。そのためにつけたい「数学的な見方・考え方」は、以下のようなものがある。

1. 既習の活用
2. 他の場合はどうなるのか？
3. どうしてそうなるのか？なぜその方法ではいけないのか？
4. 関係はないのか？
5. 別の考え方や解き方はないのか？
6. どういう意味なのか？具体的に説明できないか？
7. 条件や仮定を設定したらどうだろうか？

3 実践の成果

子どもたちは、自ら問いをもつことで、間違えることを恐れずに、課題に対して積極的に向き合い、それを書くことや発言で表現することに主体的に取り組む姿が見られるようになった。さらに、「みんなの問い」

と個々の問いをつなげ共有することやペア学習等を取り入れることで、協働的に学び合う姿がみられるようになった。そのことにより、安心して話したり、聞いたりしようとする意識が芽生えてきた。

私たち教師は、それぞれがもつ「問い」に対する認識にズレがあることに気づき、その都度、話し合いを重ね、共通理解を深めてきた。その結果、「問いとは何か」「問いが生まれるとは何か」「問いをつなげるとは何か」について共通のイメージを言葉で表すことができるようになってきた。また、教師は授業の中で大切にしたい「数学的な見方・考え方」を明確に持ち、その点を大切にしたい「問い返し」を意識するようになってきた。



4 今後の展開

今年度までの間に、小谷小学校として、「問い」について共通理解が図れ、「問いが生まれる」授業から、「問いがつながる」授業づくりの方法を学ぶことができた。研究としては、一区切りになるが、学んだことを活かしてさらに発展させていきたいと考える。横浜国立大学教育学部教授池田敏和先生からは、講演会の中で今後は「算数科の学習の系統性も考えながらカリキュラム・マネジメントの視点も含めて取り組めると良いのではないか。」とお話をいただいた。新たな視点をまた研究の中で大切にしたい。